



(株) 日本水道設計社
宇川 一行

青森市の四季を感じて

昨年の8月1日付で(株)日本水道設計社仙台事務所に転勤してまいりました宇川一行と申します。

私は、神奈川県川崎市で生まれ、7歳の時に青森県八戸市に転居し、高校までを過ごしておりました。その後は、大学進学、就職、転職により各地を転々とし、そして、現在の(株)日本水道設計社に入社し、青森事務所へと赴任することとなりました。

青森市への赴任が決まった時は、私も八戸市に住んでおりましたので、住み慣れている青森県であることから、安心しておりましたが、青森市に住んでみると気候や風土が青森県のなかでもこんなに違うものかと驚かされることが多々あり、毎日が新鮮なものでした。

その中でも冬期間の雪の量は、今までに経験したことがないものでしたし、八戸市ではほとんど雪が降らないため、降り続ける雪に驚きとともに戸惑う毎日でした。そして、雪が毎日降るため、すぐに雪の山となり、通行ができなくなるので、積雪が増える前に除雪することが必要であり、朝晩は必ず除雪をしなければなりません。そのため、毎朝事務所周辺の雪を除雪し、その後仕事を始めるため、体が疲れてしまい、仕事が手に付かない時もありました。しかし、地元の方は、手慣れたものであり、少しの時間があれば、除雪を行い、人が通る場所や店の前などに雪をためないようにしており、手際の良さには感心させられました。



また、その毎日の除雪により、冬期間の運動不足の解消に多少なりとも役に立ったようで、風邪も引かずに過ごせた気がいたします。

そして、この雪が解け、長い冬が過ぎると、待ちに待った春がやってきます。雪解けと同時に山に次々と緑が芽吹き始め、私の趣味である山菜とりの季節となります。雪の中で耐え忍んできた山菜が次々と出始めるため、5月連休以降の山には山菜とりの人たちでいっぱいとなり、競い合うように山中へと入っていきます。その姿をみると冬の間に我慢してきたものを爆発させているような感じさえし、これこそ生きるということなのかと感心させられました。

また、青森県の遅い春には、連休中に満開となる弘前公園の桜も有名ですが、この時期から、青森県内の観光地で売られているアイスも楽しみの一つです。その名称も面白く「ばばヘラ」と言い、地元のおばあさん（おじさんもたまにいるが）が、リヤカーでアイス売っているものです。このアイスは青森特産であるリンゴ味が主であり、味はさっぱりしていて、大変おいしいものです。皆さんも是非機会がありましたら、食してみてください。



桜や山菜の時期を過ぎると、短い夏の時期に入ります。夏の青森市といえば、東北三大祭りであるねぶた祭りの時期です。小学生のころに何度か見たことがありましたが、ねぶた祭り期間中に最初から最後まで青森市内にいたことがなかったため、青森市民のねぶた祭りに対する熱い思いを理解できていなかったのに気付かされました。特に驚かされたのは、ねぶたへ参加する方の一部は、ねぶた期間中の1週間会社を休み、祭りに没頭すると聞かされたことと、その休暇を許可する会社のおおらかさです。その1週間のねぶた祭りでは、短い夏を最大限に楽しみ、ねぶたという伝統行事に誇りと情熱を持って、向き合っていく青森市民の思いが込められた情熱的な祭りなのだ実感させられ、私自身そこまで情熱的に取り組んでいるものがあるのか考えさせられました。



夏が過ぎると一気に気温が下がり始め、山々が色づき始めます。青森市内から八甲田山を毎日眺めていると、徐々に赤い木々の標高が低くなり、それに合わせるかのように寒さも増していきます。しかし、一日一日の寒くなることにより、厳しい冬の準備期間であり、ある意味ほっとすることのできる季節です。

このように青森市は、四季の移り変わりを肌で感じることができ、自然の厳しさを体感できる素晴らしい場所でありました。私にとって、青森市赴任中の体験は、大変有意義なものであり、勉強になるものでした。

そして、昨年より仙台へ移動となり、多少なりとも責任ある立場になりましたので、一層の努力をし、業務に対しても業界全体に対しても真摯に向き合っていきたいと思っております。

今後ともよろしく願いいたします。